

令和2年 年頭の辞



海事振興部長 竹本 直樹

令和2年の新しい年を迎え、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

九州運輸局では、本年も引き続き、九州の海事産業が元気になるための施策、支援に取り組んでまいります。

日本経済は、昨年に引き続き緩やかな回復基調が続いているところですが、一方で日韓関係の影響による訪日外国人旅行者数の減少や海事産業の円滑な遂行に必要な労働力の確保が懸念されているところではあります。

海外からのクルーズ船の誘致につきましては、「2020年に500万人」の誘客目標に向けて、九州においても港湾の整備やポートセールスが積極的に進められているところです。

一方で、中国のクルーズマーケットの急拡大に伴い、クルーズ船社が配船を急増させ競争が過熱化した結果、中国発クルーズ船の日本への寄港が減少している状況も見受けられますが、昨年からの新造船の投入や、2021年に向けて中国マーケットへの世界最大級のクルーズ船の配船が発表されるなど、今後は日本への寄港の復調が期待されているところです。

旅客航路事業は国民生活、産業活動に必要な社会基盤であり、人流及び物流の担い手として、さらには観光振興に資する有益なツールとして、重要な役割を果たしています。離島が多く、また、大消費地である近畿・関東と遠く離れている九州において、海上輸送は、地域の暮らしを支える生活基盤であり、また、大量輸送が可能な物流の大動脈であり、民生の安定や地域経済の振興・発展に果たす役割は極めて大きなものとなっています。

特に、全国の3割を占めている離島航路は、住民の生活に欠かせない交通手段として重要な役割を担っていますが、本土に比べ過疎化・高齢化の進展が著しい島嶼地域においては、島民の生活安定のため離島航路の経営安定と航路の維持・活性化が喫緊の課題となっているところです。

九州運輸局では、離島航路が島民の日々の暮らしに欠かせない重要な生活インフラであることに鑑み、局内に設置している「海上旅客航路維持・活性化支援推進本部」において、関係自治体と密接に連携しながら、航路利用の促進や経営改善に向けた取り組みを進め、必要な施策を適切に実施するよう全力で取り組んでまいります。

また、本年1月からSOx規制強化による対応が求められているところですが、必要な燃料油が安定的に確保できるよう、航路事業者の皆様をはじめ関係者と連携しながら、必要な取組みを進めてまいります。

内航海運業につきましては、今後も産業基礎物資の輸送や海運へのモーダルシフトを担う基幹的インフラとして安定的な輸送を確保していくことが必要であり、また、社会全体で生産性の向上が求められているところです。九州運輸局では、現下の内航海運を巡る諸課題の早期解決と内航海運の目指すべき将来像として定めた「内航未来創造プラン」における各施策の実現に向けた取組みを着実に進めてまいります。

安定的輸送を支えるための人的基盤である内航船員は、高齢化と船員不足が喫緊の課題となっています。若年船員の確保・育成を図るために、船員就業フェアの開催、出前講座、インターンシップ、船員確保計画の認定事業者への助成等の各種取組みを強力に推進し、働き方改革を通じた船員の労働環境の改善によって、より多くの優秀な若者が船員の職場に魅力を感じてもらおうよう取組みを進めてまいります。

さらに、小・中学生や先生を対象とした海事産業見学会の実施や海洋教育プログラムの活用により、船員を含む海事産業全体の理解促進を教育委員会や学校、地域と連携して取り組んでまいります。

また、登録船舶管理事業者制度を活用した経営基盤強化への取組みにつきましては、登録船舶管理事業者による運用方法等の具体的内容について情報の提供を図るとともに、制度の促進と定着に向けた効果的な方策の検討など、支援する取組みを継続してまいります。

港湾運送事業につきましては、海上輸送と陸上輸送の結節点において、港湾物流の中心的役割を果たしています。九州の港湾が地理的・歴史的優位性を生かして、成長著しいアジアの活力を取り込みながら、アジアのゲートウェイとして、より一層飛躍するために、地域の産業界と連携・一体となってその発展に努めてまいります。

また、喫緊の課題である人手不足の対策につきましても、九州運輸局運輸観光人材確保・育成促進プロジェクトチームを活用し、小・中学生を対象とするコンテナターミナルなどの見学会を通じ、港湾関係者と連携しながら取組みを推進してまいります。

造船・舶用工業を取り巻く環境は、鋼板などの原材料の高騰や昨年度末より続く円高の影響などにより、いまだ厳しい状況が続いている状況であります。

しかしながら、その一方では、足下の工事量は確保されていますが、依然として、中国と韓国の過剰な建造能力による低船価での受注拡大、政府

系金融による支援、ロット受注、長引く国際海運市況の低迷や深刻な船腹過剰感などにより、厳しい受注競争状況にあることから、今後も引き続き注視してまいります。

また、海事分野における船舶の開発・建造から運航に至る全てのフェーズで生産性向上を目指す i-shipping（海事生産性革命）につきましても海事業界と連携しながら推進してまいります。

さらに、造船・船用工業における人材確保の推進を目的として、造船所及び船用工業事業者の近隣にある工業高校機械科 1 年生を対象に、造船・船用工業に対する興味を育てていただくための見学会を開催する取り組みも進めてまいります。

合わせまして女性活躍推進に向けた取組みとして、「輝け！フネージョ★」プロジェクトのもと、海の世界で働く様々な職種の女性たちが感じる仕事のやりがいなどについて、造船・船用工業関係企業の先進的な取り組み事例について紹介してまいります。

九州運輸局としましても、i-shipping による造船の輸出拡大と地方創生を推進するとともに、地域の人材育成・確保及び、外国人造船就労者受入れ事業を通じて地域造船業・船用工業の成長を後押ししてまいります。

本年も職員一同、海事産業が私たちの暮らしに重要な役割を果たしていることについて内外に積極的にアピールを行い、その発展に大いに貢献できるよう努めてまいりますので、ご支援、ご協力をいただきますようよろしく願いいたします。

最後になりましたが、皆様にとりまして、本年がより良い年になりますよう祈念しまして、私の年頭の辞とさせていただきます。